

第10章

地域ケア個別会議（模擬）

南雲 健吾

公益社団法人東京都理学療法士協会理事

川野 和也

立川市北部東わかば地域包括支援センター

第10章 地域ケア個別会議（模擬）

本科目の目標

- ・ 多職種が連携し、高齢者の自立した日常生活の支援、介護予防、要介護状態等の軽減を目的とした地域ケア個別会議の開催を推進するため、高齢者の生活課題とその背景にある要因を理解し、尊厳を保ちつつ、個々の高齢者に合った適切な支援方法について提案・助言ができる実践者となる
- ・ 高齢者のQOL（生活の質）ならびにケアマネジメントの質の向上を図りながら、課題分析や支援の積み重ねを通じ、地域に共通する課題の発生予防、重度化防止を推進できる実践者となる
- ・ 要支援者を中心とした軽度者が増え続けている現状において、地域ケア会議の持つ5つの機能（個別課題解決、ネットワーク構築、地域課題発見、地域づくり・資源開発、政策形成）を活用し、新たな地域資源の創設など、高齢者が安心して地域で暮らし続けられることができる、地域包括ケアシステムの構築に寄与する実践者となる

1 本科目の趣旨について

自立支援・介護予防を目的とした地域ケア個別会議を開催するためには、会議の在り方並びに参加者及び助言者の役割についての基礎を学ぶとともに、実際の会議を想定した演習を実施することが効果的です。

この科目では高齢者のQOL（生活の質）及び介護支援専門員（ケアマネージャー）等によるケアマネジメントの質の向上を図るとともに、地域に共通する課題を明らかにし、地域ケア会議の持つ5つの機能を活用しながら地域包括ケアシステムの構築に寄与する実践者となることを目的に模擬会議を開催します。

2 演習の進め方

（1）あらかじめ提示した事例を読み込み、ICFを活用したワークシート、エコマップ及び地域資源の調査表を事前課題として作成します。

（2）事前課題を持ち寄りグループにて演習を行い、メンバーから提供された様々な情報、意見、気づきを共有します。

（3）共有した内容をもとに地域ケア個別会議を模擬にて実施し、会議の進め方やそれぞれの専門職の役割を認識するとともに、提案・助言の内容及びその方法について確認していきます。

3 演習資料集について

演習の流れの説明、事例及び事前課題を演習資料集としてまとめています。

事例は、慢性閉塞性肺疾患の75歳男性、一人暮らし。新規申請にて要支援1の認定にな

り、地域包括支援センターから居宅介護支援事業所にケアマネジメントが委託され、介護保険サービスを提案したものの、利用につながらず委託元の地域包括支援センターに相談している事例です。

介護予防の観点から地域ケア会議を開催し、個別課題の把握から地域課題の解決に目を向けるべき事例となっています。

演習資料集の構成は、以下のとおりです。

地域ケア個別会議（模擬）演習の流れ・スケジュール

事例概要

利用者基本情報

基本チェックリスト

興味関心チェックシート

介護予防支援アセスメント用情報収集シート

事前課題 『CF 課題分析シート』

事前課題 『CF 課題分析シート』（記載例）

事前課題 「エコマップ」

事前課題 「エコマップ」（記載例）

事前課題 「地域資源調査表」

事前課題 「地域資源調査表」（記載例）

演習シート1-1 『CF 課題分析シート』

演習シート2 「発言内容検討シート」

演習シート3 「観察者メモ」

演習シート4-1 「振り返りシート」

（別刷）演習シート1-2 『CF 課題分析シート』（書記用・A3 判）

演習シート4-2 「振り返りシート」（書記用・A3 判）

4 演習の流れについて

講義と演習を交互に配置したタイムスケジュールとなっています。講義では演習の目的について解説するとともに、会議の参加メンバーの役割について適宜 テキストを振り返り再確認するよう努めます。

演習では模擬会議の準備も含めグループワークにより様々な気づきを促すことが大切となることから、各グループにファシリテーターを配置しています。

ファシリテーターは各演習が円滑に進行するよう援助すると同時に、グループメンバーの力を引き出し、多職種協働による課題解決の重要性を伝える立場にあります。ファシリテーターには、地域ケア会議の参加経験がある、介護支援専門員の法定研修等においてファシリテーターの経験があるなどの要件が望まれます。

模擬会議では、介護支援専門員等におけるケアマネジメントの質の向上を目指す助言が

行えているか、司会や他の参加メンバーの役割が十分に生かされているか、時間管理は適切に行っていたかなど確認するために、観察者を配置し、振り返りにおいて地域ケア会議の5つの機能（個別課題解決、ネットワーク構築、地域課題発見、地域づくり・資源開発、政策形成）が活かされていたかも含め報告してもらうようにしています。

またこの演習では、模擬会議終了後、グループ内でどのような気づきがあったかについてまとめ、グループ間で発表する方式を取り入れています。

5 地域ケア個別会議（模擬）実施のポイントについて

地域ケア個別会議（模擬）の実施にあたっての最大のポイントは事前の準備です。

地域ケア個別会議はともすれば介護支援専門員へのアセスメント不足の指導に終始してしまいがちです。しかしながら助言者に期待されているのは指導ではなく専門的助言です。介護支援専門員はサービス事業所や医療介護福祉の専門職の力を借りながら利用者の自立を支援する立場にあり、そのことを実現するためにもケアマネジメントプロセスの中にサービス担当者会議が設定されています。利用者や家族も同席する担当者会議ではどうしても解決できない課題を検討する場として地域ケア個別会議があり、それは個別課題の解決のみならず地域課題の発見や政策形成につなげるという役割を持ちます。

演習を通じてこれらをどのように受講生に伝えるのかについては、研修事務局、講師、ファシリテーターによる事前の打ち合わせが大変重要になります。

以下に、打ち合わせで決めておきたいポイントを挙げます。

- ・事例と事前課題の提示時期は課題に取り組むに十分な時間が必要となりますが、あまり期間が空くと演習当日に内容を忘れてしまうこともあるので設定には注意が必要です。
- ・演習当日は事前課題をグループ内で共有するためにもメンバー全員分とファシリテーター用に資料の写しを受講生に準備してもらいます。
- ・受講生は模擬会議の役割ごとの基礎資格を持つものが望ましいですが、そのようになるとは限りません。とくに専門職の参加が少ない場合も多いので事前に基礎資格を確認しておき、グループ分けの際にはバランスよく配置することが望まれます。
- ・研修当日に欠席者が出た場合はグループ間で受講生の移動を行います。どうしてもメンバーが足りないときはファシリテーターが参加者として協力してもらうことも検討します。
- ・受講生の役割は演習時間内にグループで決めますが、時間が足りなくなることも多いため事前に事務局で決めてしまうのも良いでしょう。役割は演習全体の進行役と書記、模擬会議での司会者と記録係など名称が重ならないように工夫します。
- ・講師はタイムスケジュールに沿って演習を進めていきますが、時間のアナウンス等は口頭だけでなくスクリーンへの投影など視覚的情報も活用すると進行が円滑になります。
- ・演習と模擬会議の振り返り発表は会場全体へ行う場合もありますが、2グループ間での

交互発表など小規模で発表するほうが緊張感を持てるようです。その場合発表者同士の声が重ならないよう席の移動に配慮することが求められます。

- ・各グループがどのような検討や振り返りを行ったかについては研修修了後に各グループの書記シートを掲示したり、書記シートではなくホワイトボードを活用したりすると受講生全員が参考にしやすくなります。

以上、いくつかのポイントを紹介しました。繰り返しになりますがファシリテーターとの打ち合わせは大変重要となり、地域ケア個別会議の理解と演習の流れをしっかりと伝えていくことが大切となります。そのためにはタイムスケジュールごとにファシリテーターの役割を加筆した資料も必要となります。本科目では別途講師ファシリテーター用の演習の流れを準備し打ち合わせの際に活用しています。

6 まとめ

本章では、本科目の趣旨、目的、演習資料集等について解説しました。実際の演習においては規模に応じたアレンジを行っていただき、各自治体や地域包括支援センターにおいて活用いただければ幸いです。